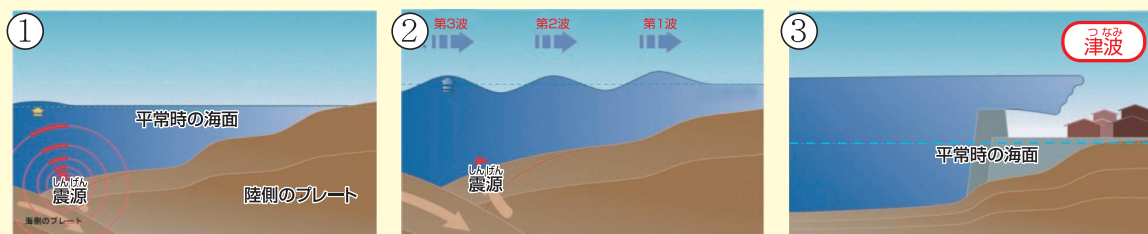


2 つなみ 津波について知ろう

つなみ 津波は、どうして起こるの？～つなみの起きる仕組み～



- ①地震によって、海が動くとき、その動きが海めんに伝わります。
- ②大きな波が生まれ、次々にまわりに広がっていきます。
- ③海岸近くは浅くなるので、波がさらに高くなります。津波は、第1波、第2波と、くり返しおそってきます。

つなみ ○ 津波はいつ来るの？

津波は、地震が起きてから、すぐに来ることもあれば、しばらくたってから来ることもあります。ですから、津波けいほう中は避難を続けるひつようがあります。

2010年にチリで地震が起きたとき、石巻に津波が来たのは、丸一日が経ってからでした。

データ3・11

地震が起きたのは 14:46

津波第1波

石巻（鮎川） 14:52

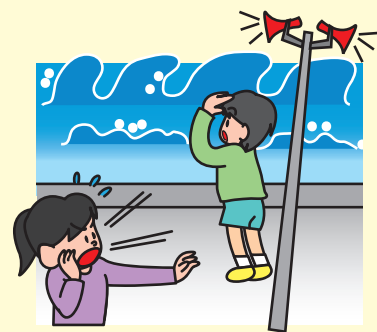
神奈川（横浜）16:10

沖縄（那覇） 18:06

つなみ ○ 津波が来る前のサインは？

大きな津波が来る前に、一度水が沖に引いていくことがあります（引き波）。しかし、引き波がなく、いきなり高い津波が来ることもあります。ですから、できるだけ早く、高い場所に避難することがひつようです。

また、海や川の様子を見に近づくことは、ぜったいにさげ、できるだけ早くはなれましょう。



つなみ ○ 津波の高さはどれくらい？

津波は、せまい場所では高くもり上がり、海岸よりも陸に上がってからのほうが高くなる場合があります。しゃ面では、津波がかけ上がり、さらに高くなります。アラスカでは、1958年に500メートルをこえる津波がおそいました。

データ3・11

津波の波の高さ

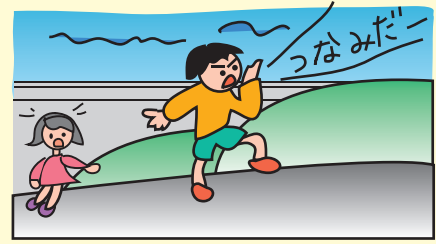
20メートル以上

津波がとどいた高さ

約50メートル

○ 津波がくることに気づいたら？

できるだけ早く高い場所や津波避難ビルなどに避難します。より早く、より高い場所へ避難することが大切です。また、津波に気づいたら、大きな声で「津波だ!」とみんなに知らせるようにしましょう。



○ 川には津波が来る？

津波は、海から川に入りこみ、さかのぼります。川はばがせまいところで高さをましたり、橋をこわしたりすることがあります。ですから、津波のときは、海はもちろん、川からもはなれて、避難します。

データ3・11
津波は、北上川をさかのぼり、岩手県境（河口から49 km）でも水位の変化がありました。

○ 「津波けいほう」とは？

津波のおそれがあるとき、気しょう庁から、津波けいほうが出されます。すると、テレビやラジオ、防災無線などで、市や町全体に知らされます。津波の高さは予想なので、もっと高い津波が来るおそれもあります。また、予想する高さが、変わることもあります。津波の予想がひくいからといって油だんすることなく、けいほうをよく聞いて行動することが大切です。

しゅるい	予想される波の高さ
大津波けいほう	3 mを超える
津波けいほう	1 m～3 m
津波注意ほう	1 m以下

データ3・11
14:49 大津波けいほう（宮城県）
「予想される津波の高さ6m」
15:14 大津波けいほう
「予想される津波の高さ10m以上」
3月12日 20:20 津波けいほうに変わる
3月13日 7:30 津波注意ほうに変わる
17:58 解除

このマークに注意！



津波注意

地震のとき、津波のきけんがある場所。地震のゆれを感じたら、すぐに避難すること。



津波避難場所

津波のときの避難場所。

ただし、避難場所にいるからといって安心してはいけません。次の避難場所を考え、情報を良く聞いて行動しましょう。



津波避難ビル

宮城県は、令和4年5月に「宮城県津波浸水想定」を公表しました。

自分が住む地域のハザードを確認し、命を守る行動について考えてみましょう。

【地域の津波浸水想定図を見よう】➡

